

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/012868

International filing date: 12 July 2005 (12.07.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2005-094080
Filing date: 29 March 2005 (29.03.2005)

Date of receipt at the International Bureau: 25 August 2005 (25.08.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日
Date of Application: 2 0 0 5 年 3 月 2 9 日

出 願 番 号
Application Number: 特 願 2 0 0 5 - 0 9 4 0 8 0

パリ条約による外国への出願
に用いる優先権の主張の基礎
となる出願の国コードと出願
番号

The country code and number
of your priority application,
to be used for filing abroad
under the Paris Convention, is

J P 2 0 0 5 - 0 9 4 0 8 0

出 願 人
Applicant(s): シー・コム株式会社

2 0 0 5 年 8 月 1 0 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】	特許願
【整理番号】	L9S14108
【特記事項】	特許法第44条第1項の規定による特許出願
【提出日】	平成17年 3月29日
【あて先】	特許庁長官殿
【原出願の表示】	
【出願番号】	特願2004-208966
【出願日】	平成16年 7月15日
【国際特許分類】	A41D 1/00
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F シー・コム株式会社内
【氏名】	内堀 弘
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F シー・コム株式会社内
【氏名】	西上 節也
【特許出願人】	
【識別番号】	399088474
【住所又は居所】	大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町西4F
【氏名又は名称】	シー・コム株式会社
【代表者】	内堀 弘
【代理人】	
【識別番号】	100080621
【弁理士】	
【氏名又は名称】	矢野 寿一郎
【電話番号】	06-6944-0651
【手数料の表示】	
【予納台帳番号】	001890
【納付金額】	16,000円
【提出物件の目録】	
【物件名】	特許請求の範囲 1
【物件名】	明細書 1
【物件名】	図面 1
【物件名】	要約書 1

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項 1】

衣服に変形自在且つ形状保持可能な部材を取り付けたことを、
特徴とする保形性を有する衣服。

【請求項 2】

変形自在且つ形状保持可能な部材を、
衣服の見頃、袖、裾、襟又はポケットに取り付けたことを、
特徴とする保形性を有する衣服。

【請求項 3】

前記変形自在且つ形状保持可能な部材をセラミック製ワイヤとした、
請求項 1 又は請求項 2 に記載の保形性を有する衣服。

【請求項 4】

前記セラミック製ワイヤの端部を折り返し、筒状部材を被せて、端部処理をした、
請求項 3 に記載の保形性を有する衣服。

【書類名】 明細書

【発明の名称】 保形性を有する衣服

【技術分野】

【０００１】

本発明は、衣服を立体的に整形し、その状態を保持するための衣服の構造に関する。

【背景技術】

【０００２】

婦人用下着には、下着の形状を安定させるためや、身体形状の補整のために、形状記憶材料で構成されたワイヤを、下着に組み込んだものがある。

また、婦人用下着に限定されず、衣服の形状を保持するために、衣服や装飾具等にも形状を安定させたり保持したりするための構造が備えるものが知られている。

【０００３】

例えば、特許文献１に記載の技術では、首周り全体から後頭部を紫外線から保護するために、衣服の襟部を、耳全体から後頭部にわたって覆うことのできる形状のものとし、襟部を立てた状態に保持するために、芯材として形状記憶合金製ワイヤや金属製ワイヤを組み込ませている。

また、特許文献２に記載の技術では、形状記憶合金製ワイヤ又は金属製ワイヤを保形部材として、襟巻きの内部に取り付け、襟巻きの立体的形状を自在に変化させ、その形状を保持可能として意匠的価値を高めることができるようにしている。

【特許文献１】 特開２０００－３１４０２３号公報

【特許文献２】 登録実用新案第３０８９１２３号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

特にニット素材等、比較的柔らかな素材から成る衣服では、衣服の立体的形状を自在に変化させ、素材独自の風合いを保持したまま、その形状を保持させることが困難である。例えば、ニット素材等の柔らかい素材で形成された衣服では、襟を立てせたり、袖を捲ったりすることはできても、素材の性質上、その形状を保持することが困難である。

そこで、本発明では、ニット素材等の柔らかい素材で形成された衣服であっても、衣服の立体的形状を自在に変化させた状態で保持可能とする、保形性を有する衣服の構造を提案する。

【課題を解決するための手段】

【０００５】

本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段を説明する。

【０００６】

即ち、請求項１においては、衣服に変形自在且つ形状保持可能な部材を取り付けた、保形性を有する衣服である。

【０００７】

請求項２においては、変形自在且つ形状保持可能な部材を、衣服の見頃、袖、裾、襟又はポケットに取り付けたものである。

【０００８】

請求項３においては、前記変形自在且つ形状保持可能な部材をセラミック製ワイヤとしたものである。

【０００９】

請求項４においては、前記セラミック製ワイヤの端部を折り返し、筒状部材を被せて、端部処理をしたものである。

【発明の効果】

【００１０】

本発明の効果として、以下に示すような効果を奏する。

【0011】

請求項1においては、ニット地のような柔らかく形崩れし易い布地で構成されていても、衣服を立体的に整形し、その状態を保持させることができる。また、一旦、衣服の形が崩れたとしても、容易に再度整形して良好な状態を形成することができる。

【0012】

請求項2においては、柔らかく形崩れし易い布地で構成されていても、裾を捲った状態に整形し、それを保持することができる。

【0013】

請求項3においては、金属製ワイヤと比較して錆びることなく、洗濯にも耐えることができ、また、自在に屈曲可能であるとともに、繰り返し変形しても脆性変化が小さいという利点があり、好ましい。

【0014】

請求項4においては、衣服を構成する服地に組み込まれるワイヤの端部が、布を突き破って、飛び出すことを防止できる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0015】

次に、発明の実施の形態を説明する。

図1は本発明の一実施例に係る衣服としての襟付きシャツを示す図、図2は襟付きシャツに取り付けられたワイヤの配置を示す図、図3は本発明の一実施例に係る衣服としてのTシャツを示す図、図4はTシャツに取り付けられたワイヤの配置を示す図である。

図5はボーダー柄部分の構成を示す図である。

図6はワイヤを示す図、図7はワイヤを衣服に取り付ける形態の一例を示す図、図8は衣服にワイヤを取り付けた状態を示す図である。

図9はワイヤを取り付けた襟部分の様子を示す図、図10はワイヤを取り付けたポケット部分の様子を示す図、図11はワイヤを取り付けた袖部分の様子を示す図である。

図12は本発明の一実施例に係る衣服としてのパンツを示す図である。

【0016】

本発明の保形性を有する衣服では、ニット地のように柔らかく、立体形状を保持することが困難な布地で構成されていても、その布地の風合いを損ねることなく、衣服を整形し、その形状を保持させることができる。

図1では、本発明に係る保形性を有する衣服の一例として、ニット地のシャツ10を示している。シャツ10は襟付きシャツであり、該シャツ10の見頃11には袖12が縫合されており、また、見頃11には襟13とポケット15とポケットフラップ15aとが縫合されている。なお、図3に示す如く、ニット地で襟のないTシャツ40も、保形性を有する衣服とすることができる。

【0017】

但し、保形性を有する衣服は、シャツに限定されることなく、パンツやジャケット等とすることができる。また、マフラーやスカーフ、鞆等の、服飾雑貨に本発明の保形性を有する衣服の構造を応用させて、保形性を有する服飾雑貨とすることもできる。

また、衣服を構成する布地の素材も、ニット地に限定されるものではなく、その他の素材とすることもできる。

【0018】

なお、図1や図3に示す如く、シャツ10・40はボーダー柄（縞柄）のニット地で構成されている。

図5に示す如く、ボーダー柄は、布地を織る糸の色を変化させて形成されるのではなく、主布17と副布16との、少なくとも複数の種類（柄・色）の布地を縫合させることにより、立体的に形成されている。

主布17の裏側であって、主布17と主布17との間に、ボーダー柄の幅よりやや大きい幅を有する副布16が縫いつけられている。主布17・17の端部17a・17aは、纏られることなく、切り放しとされ、また、衣服の表側に露出している。主布17の端部

17aはニット地の特性上、表側へ巻き上がって、ボーダー柄の上下の切替部分に立体的なラインが形成される。

【0019】

シャツ10には、保形性を備えるために、すなわち、衣服の立体的形状を自在に変化させ、その形状を保持させるために、適宜位置に、変形自在且つ形状保持可能なワイヤ20・20・・・が取り付けられている。

例えば、図2や図4に示す如く、襟付きシャツ10では、襟13と、襟口（襟の開き部分）14、袖12の下部、見頃11の下部、ポケット15の縁、ポケットフラップ15aの縁に、ワイヤ20・20・・・が取り付けられ、Tシャツ40では、袖12の下部、見頃11の下部に、ワイヤ20・20・・・が取り付けられている。

【0020】

前記ワイヤ20は、金属製ワイヤ、樹脂製ワイヤ、セラミック製ワイヤ等を用いることができる。本実施例では、セラミック製ワイヤを採用している。セラミック製ワイヤは、金属製ワイヤと比較して錆びることなく、洗濯にも耐えることができ、また、自在に屈曲可能であるとともに、繰り返し変形しても脆性変化が小さいという利点がある。

図6に示す如く、ワイヤ20の両端20a・20aは折り返され、折り返された部分は樹脂製チューブ21・21に挿入され、熱溶着される。これにより、衣服を構成する服地に組み込まれるワイヤ20の端部が、布を突き破って、飛び出すことのないようにしている。

【0021】

前記ワイヤ20は、衣服の表側に露出しないように、裏側に取り付けられる。

例えば、図7に示す如く、衣服の表側を構成する主布17の裏側に、別布19を縫合して袋を形成し、該袋の内部にワイヤ20を挿通させることにより、衣服にワイヤ20を取り付けることができる。

本実施例では、図8に示す如く、布地のボーダー柄の副布16の裏側に別布19をあてて、副布16と別布19との間に袋を形成し、ここにワイヤ20を挿通させることにより、衣服にワイヤ20を取り付けている。

【0022】

なお、ワイヤ20は、衣服の布地に対して固着されたり布地に織り込まれたりするのではなく、多少の許容範囲を持って移動できるように衣服に取り付けられる。これは、衣服がニット地等の伸縮する布地で成るからであり、ニット地の伸縮によってワイヤ20が組み込まれた部分に不自然な引きつりや皺が生じないようにするためである。

但し、ワイヤ20の取り付け形態は、上記例に限定されるものではなく、布地にワイヤ20を多少の許容範囲をもって移動できるように部分的に留め付けたり、主布17の端部の折り返し部分にワイヤ20を挿通させたり、することができる。

【0023】

シャツ10の襟13の近傍においては、図9（a）に示す如く、襟13の周縁と、襟口14の周縁とに、ワイヤ20が取り付けられる。これにより、図9（b）に示す如く、襟13を立てた状態で保持させることができる。また、襟13の一部を曲げたり、襟口14を波立たせたり、シャツを立体的に整形し、その状態を保持することができる。

【0024】

シャツ10のポケット15部分では、図10（a）に示す如く、ポケット15の開口の周縁と、ポケットフラップ15aの周縁とに、ワイヤ20が取り付けられる。これにより、図10（b）に示す如く、ポケット15を見頃11から浮き立たせて立体的に整形し、また、ポケットフラップ15aを上方へ反り上がった状態に立体的に整形し、これらの立体的に整形された状態を状態を保持することができる。

【0025】

シャツ10の袖12部分では、図11（a）に示す如く、袖12の下部に袖裾方向にわたって複数のワイヤ20が取り付けられる。ワイヤ20は袖筒の形状に沿って環状に取り付けられる。但し、袖裾方向に沿って複数本を設けることができるが、衣服を着た状態で

の活動を阻害しないようにするためには、袖筒の形状に沿って環状に取り付けることが好ましい。これにより、図 1 1 (b) に示す如く、袖 1 2 を捲った状態に立体的に整形し、その状態を保持することができる。

【0026】

なお、保形性を有する衣服としてのパンツ 2 5 では、図 1 2 (a) に示す如く、パンツ 2 5 の裾に複数の環状のワイヤ 2 0 が取り付けられる。これにより、ニット地のように柔らかい布地で構成されたパンツ 2 5 であっても、図 1 2 (b) に示す如く、裾を捲った状態に立体的に整形し、その状態を保持することができる。

【0027】

上述のように、衣服にワイヤ 2 0 を取り付けすることで、ニット地のような柔らかく形崩れし易い布地で構成されていても、衣服を立体的に整形し、その状態を保持させることができる。しかも、糊付けのように布地の表面に処理を施さないで、布地の持つ風合いを損ねることがない。

さらに、時間が経過しても、ワイヤ 2 0 の持つ保形性は経時変化しないので、衣服の整形された立体的な形態は保持される。また、一旦、衣服の形が崩れたとしても、ワイヤ 2 0 であるので、特殊な機器や用具、薬剤等を必要とすることなく、容易に再度整形して良好な状態を形成することができる。

【図面の簡単な説明】

【0028】

【図 1】 本発明の一実施例に係る衣服としての襟付きシャツを示す図。

【図 2】 襟付きシャツに取り付けられたワイヤの配置を示す図。

【図 3】 本発明の一実施例に係る衣服としての T シャツを示す図。

【図 4】 T シャツに取り付けられたワイヤの配置を示す図。

【図 5】 ボーダー柄部分の構成を示す図。

【図 6】 ワイヤを示す図。

【図 7】 ワイヤを衣服に取り付ける形態の一例を示す図。

【図 8】 衣服にワイヤを取り付けた状態を示す図。

【図 9】 ワイヤを取り付けた襟部分の様子を示す図。

【図 10】 ワイヤを取り付けたポケット部分の様子を示す図。

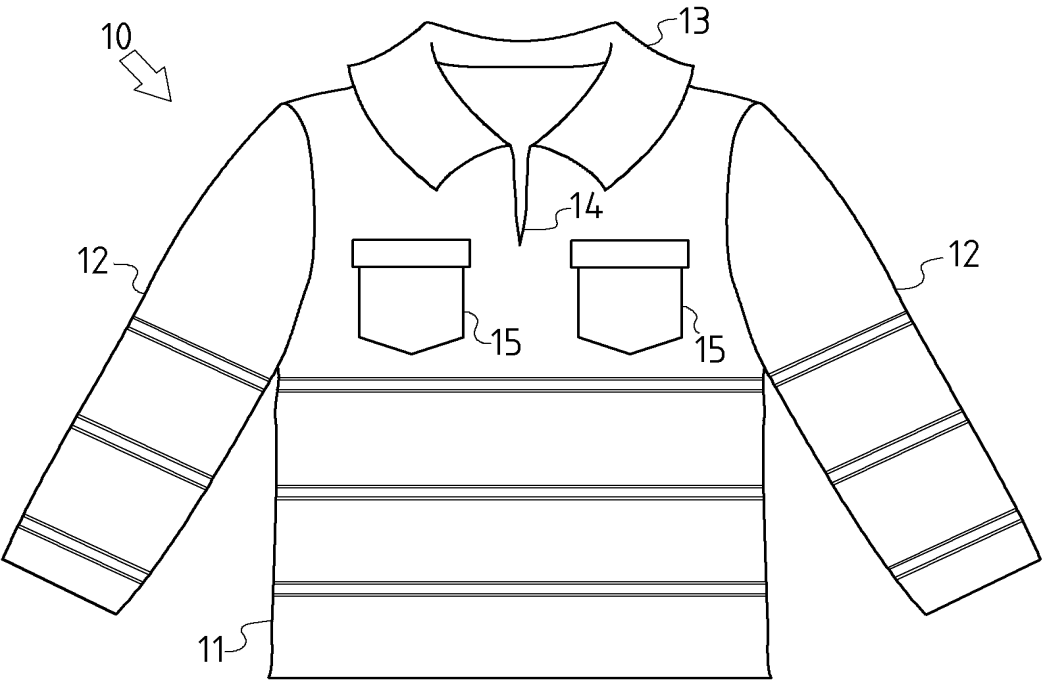
【図 11】 ワイヤを取り付けた袖部分の様子を示す図。

【図 12】 本発明の一実施例に係る衣服としてのパンツを示す図。

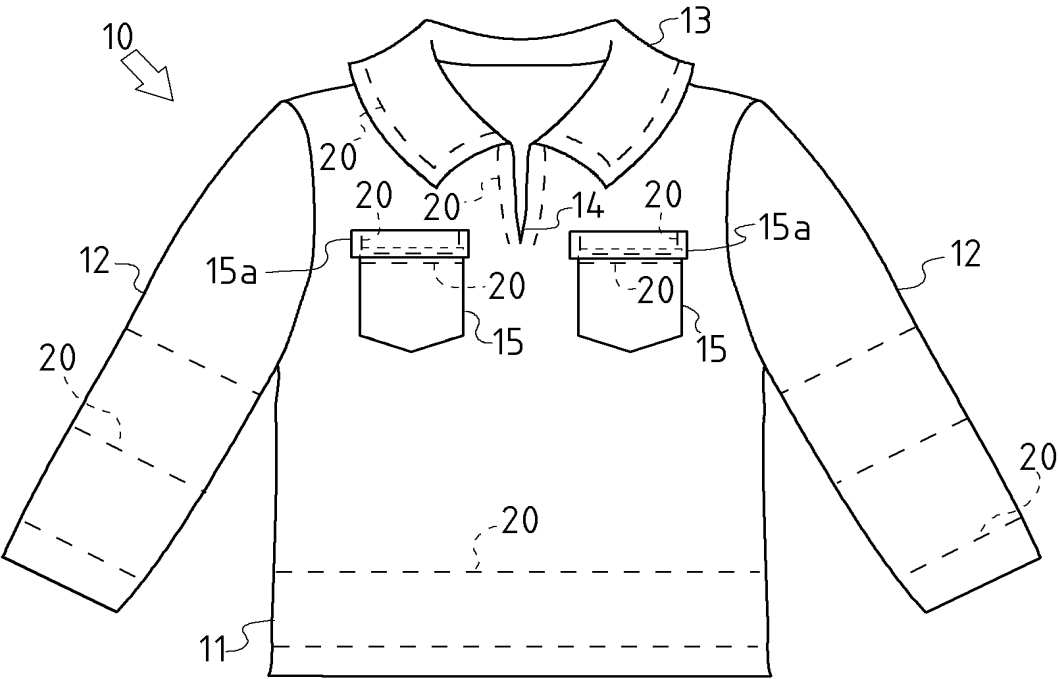
【符号の説明】

【0029】

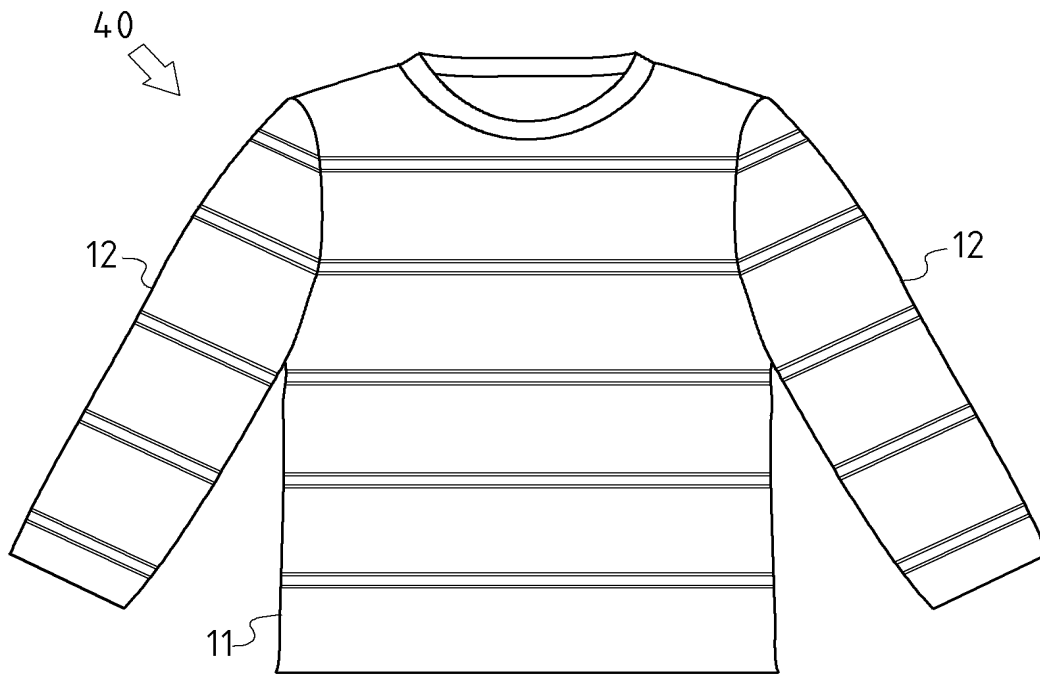
- 1 0 シャツ
- 1 1 見頃
- 1 2 袖
- 1 3 襟
- 1 4 襟口
- 1 5 ポケット
- 2 0 ワイヤ
- 2 1 チューブ



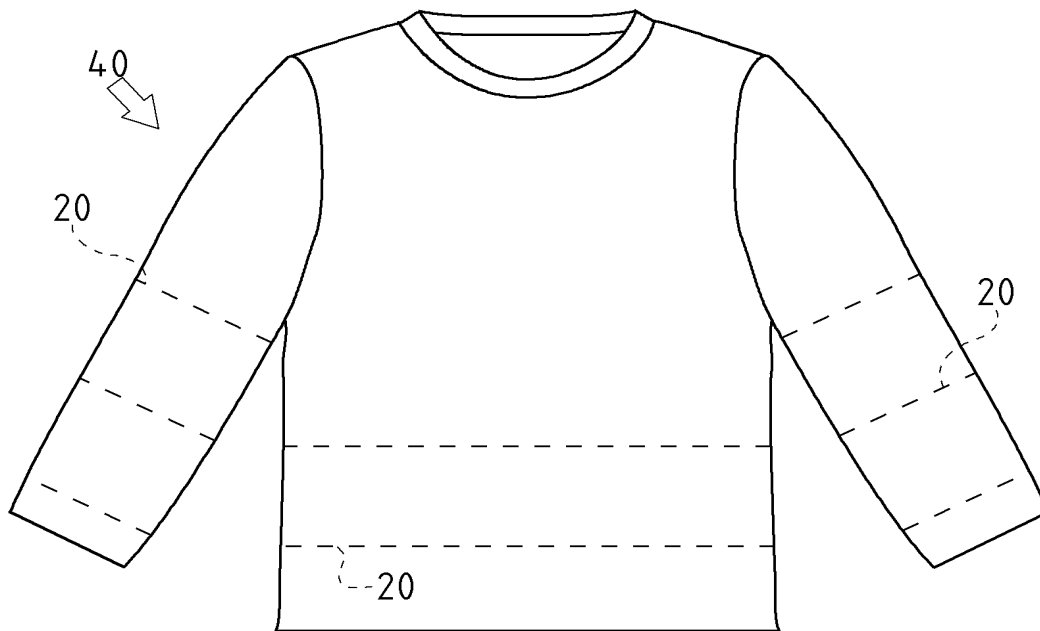
【図 2】



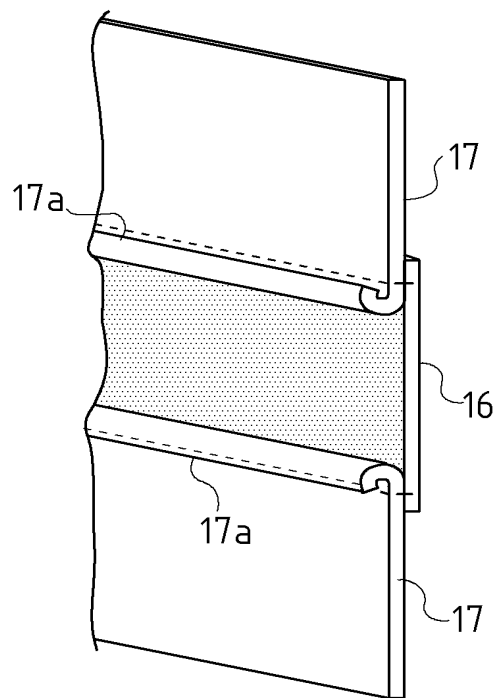
【図 3】



【図 4】



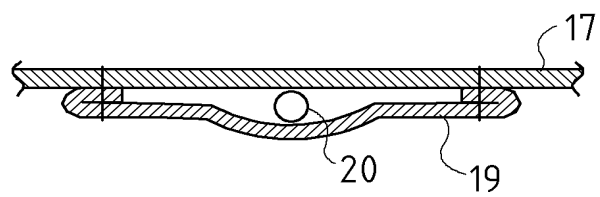
【図 5】



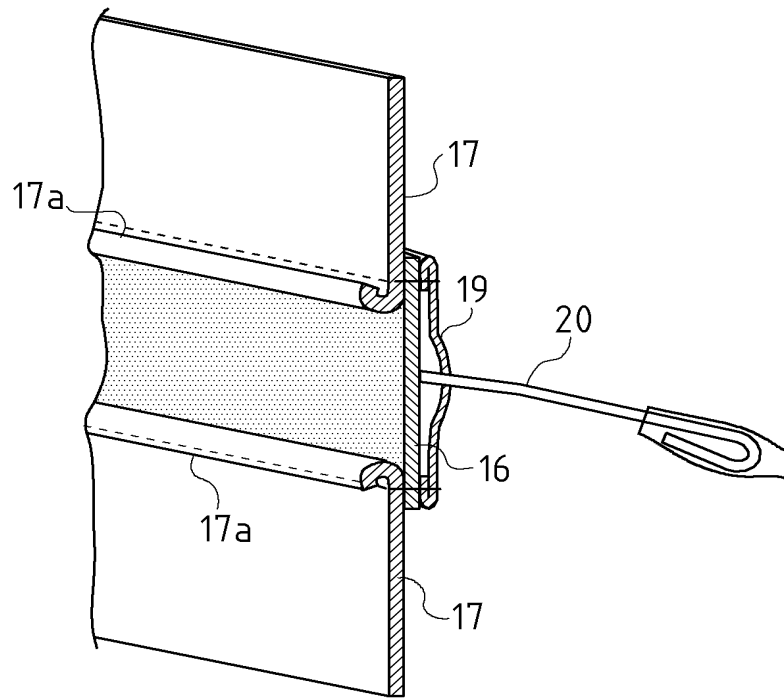
【図 6】

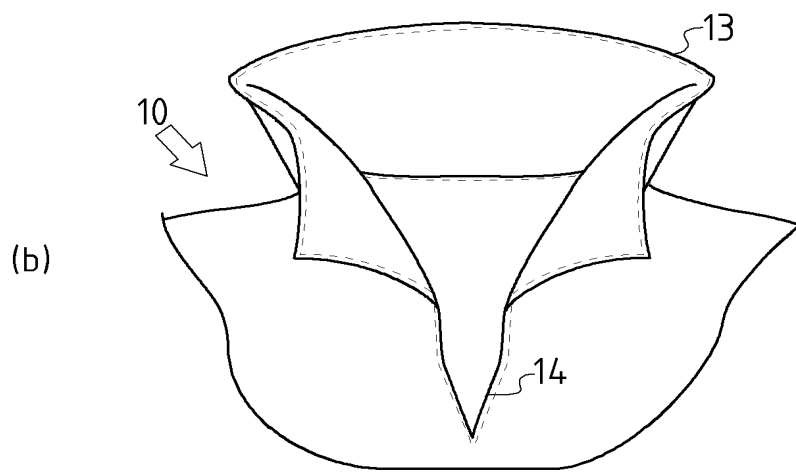
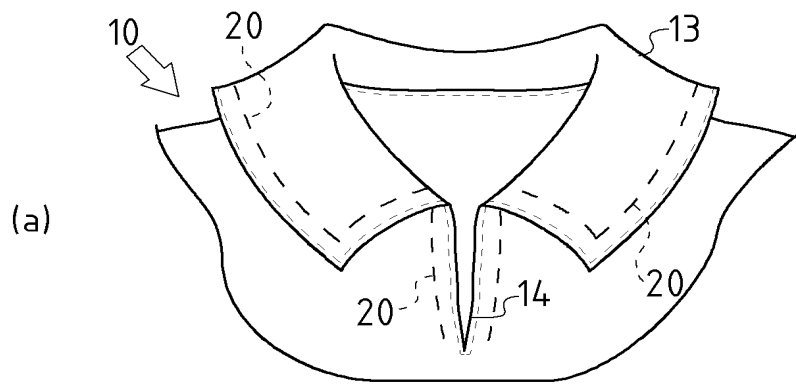


【図 7】

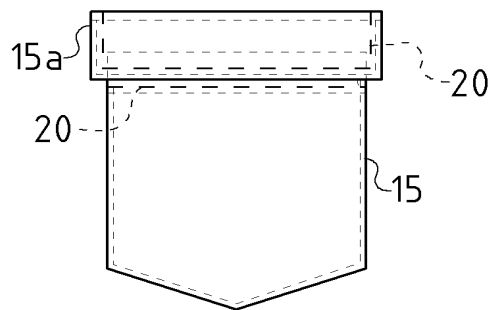


【図 8】

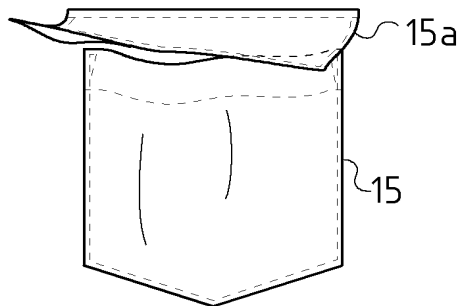




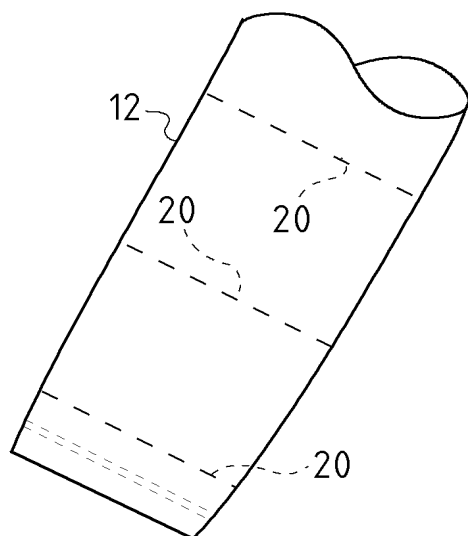
(a)



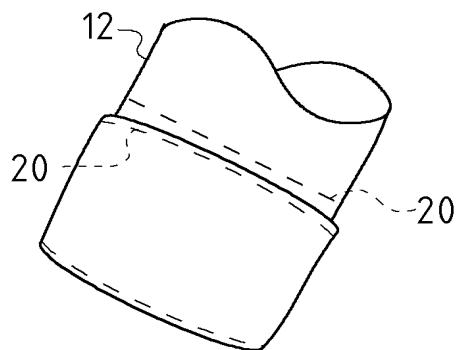
(b)



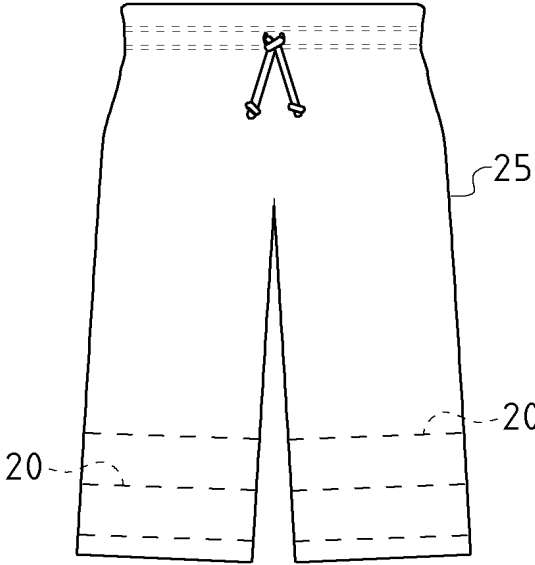
(a)



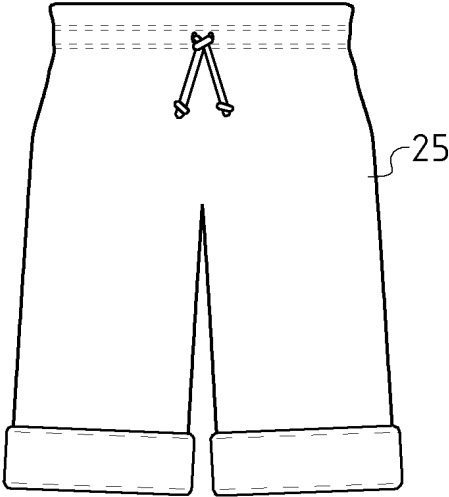
(b)



(a)



(b)



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ニット素材等の柔らかい素材で形成された衣服であっても、衣服の立体的形状を自在に変化させた状態で保持可能とする、保形性を有する衣服の構造を提案する。

【解決手段】 衣服に変形自在且つ形状保持可能なワイヤ20を取り付けた。前記ワイヤ20は、該ワイヤ20の端部を折り返し樹脂製チューブ21を被せて端部処理をしたセラミック製ワイヤとした。また、ワイヤ20は、シャツ10の見頃11、袖12、又はズボン25の裾部分において、筒状の断面形状に沿って環状に取り付け、シャツ10の襟13又はポケット15において、その周縁部の形状に沿って取り付けた。

【選択図】 図2

出願人履歴

3 9 9 0 8 8 4 7 4

20030501

住所変更

大阪府大阪市西区立売堀2丁目1番14号 ビジネスゾーン本町
西4F

シー・コム株式会社